

科目名	医用治療機器学実習 ②			授業の種類	実習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	3年 通年
【授業の目的・ねらい】 臨床工学技士は臨床現場において様々な医用機器を取り扱う。その対象は複雑な機器から簡易な機器まで様々である。本実習では自ら機器の操作方法を身につけるだけでなく、機器の安全で適切な使用についての知識を修得すると共に、国家試験合格に向け十分な学力を身に付ける。							
【実務者経験】 臨床工学技士として西市民病院に勤務。臨床工学室技士長代行として、院内の医療機器の安全管理等に従事。							
【授業全体の内容の概要】 臨床現場で広く使用されている医療機器について、実際の操作方法や原理を学び基本的事項の理解、治療目的以外の変化が生じる危険性（副作用など）に気が付く能力を身につける。また簡易取扱い説明書等を作成することで、より深く機器の特徴を知り、他者へ伝える力の醸成を図る。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・対象機器の使用手順に基づき、機器を操作できるようになる ・機器の警報やトラブル対処方法をわかりやすく説明できるようになる ・対象者の立場にたって物事を考えることができるようになる							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	血液浄化療法の概要						
17	血液浄化療法の概要						
18	血液浄化療法の概要						
19	治療に用いるエネルギー						
20	レーザー治療器（光治療器）						
21	レーザー治療器（光治療器）						
22	光線治療器・光凝固装置（光治療器）						
23	超音波の手術装置（超音波治療器）						
24	内視鏡・内視鏡手術装置（内視鏡機器）						
25	ハイパーサーミア・冷凍手術装置（熱治療装置）						
26	医用治療機器学 まとめ						
27	医用治療機器学 まとめ						
28	医用治療機器学 まとめ						
29	治療機器学の国家試験問題を解けるようになる						
30	治療機器学の国家試験問題を解けるようになる						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学講座 医用治療機器学、篠原一彦、医歯薬出版株式会社 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社							
【準備学習・時間外学習】 ・実習を円滑に進めるため、事前に実習機器の概要を学んでから講義に臨んでください ・実習後は速やかに報告書の作成と実技の習熟に取り組んでください							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 提出物の評価を30点、定期試験を70点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する							